



国際ロータリー 第2780地区 第9グループ
湯河原ロータリークラブ 週報



2023年3月24日(金) 第2914回例会 形式:対面 天候:晴れ
合唱:それこそロータリー

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

今日はゆがわら国際交流協会の早藤会長がいらしているので、我が家の外国人ホームステイの体験談をお話しさせていただきます。

我が家ではドイツ、ロシア、グアム、オーストラリア、ポルトガル、中国、メキシコ他多分10ヶ国くらいの国の人たちのホームステイを受けています。

期間は1泊2日から1週間、一番長いのはロータリーでの青少年交換で、メキシコの高校生を1年間預かりました。ホームステイを悪く言う人はただ食いただ泊りイベントだなんて思っている人もいますが、ホームステイ受けてみるとわかりますが、異文化、異宗教、異言語と全く世界の違う話を聞くと世界が又違った意味で見つめる事が出来ます。60才を超えたオーストラリア人夫妻のホームステイを受け入れた時は、本人からの申し出で食事も移動も構わなくていい、泊りだけさせてくれ、と2週間近くいましたが二人で熱海箱根を遊びまわってありました。やはり彼らを見た時、私も夫婦の価値観に影響させられました。15年くらい前に預かったメキシコ人の1年間は、当初熱海で半年ずつ2家庭を回る予定だったのが、2回目の家庭の事情で私のところで1年間預かる形になってしまいました。三島南高校へ通学させましたが、医者の子でしたが帰国後5年くらい前に医療の勉強で再来日した時は、我が家で1週間遊んで行きました。女房にすれば大きな息子が出来たと言って毎日弁当作りに生きがいを見つけました。そんなホームステイ体験ですが、何と言ってもやはり2、3日でなく出来れば1週間くらい受け入れた方が両方で思い出になりますので、早藤会長には是非又企画をお願いして私の会長挨拶に代えさせていただきます。

幹事報告

なし

連絡事項

- 次週、31日は規定により休会となります。
4月の例会は、7日、14日、21日、28日の通常例会です。尚、7日の例会場はゆがわら万葉荘となりますのでお間違えの無いようお願いいたします。
- 4月23日は地区研修・協議会です。出席義務者の方は予定しておいてください。

スマイルボックス

結婚記念日 深澤昌光君(3/2)
安江仁孝君
祝！侍ジャパン3回目の世界一おめでとうございます。

出席報告

ゲスト 1名 ビジター 0名
会員 23名 欠席6名(免除者2名)
出席率 80.95%
前回の修正出席率 66.67%
前々回の修正出席率 90.48%
事前メイクアップ 1名

ゲスト

早藤義則様(ゆがわら国際交流協会会長)

皆様こんにちは。ゆがわら国際交流協会会長の早藤と申します。湯河原ロータリークラブ様からは十年以上助成金を賜っており、御礼申し上げます。今回はゆがわら国際交流協会の最近の活動についてお話いたします。お手元の資料と合わせ、ご確認お願いいたします。

1. やっさホームステイ交流

ゆがわら国際交流協会は1986年の「やっさホームステイ交流」を源流とし、1988年に設立されました。「人を知り、国を知り、世界を知る 地球民を目指して」という私達の標語が表す通り、お互いに人を知ること、文化を、国を、世界を知ることが「地球民」に近づくことであると信じ、活動を続けて参りました。コロナ禍前までは毎年およそ20名の留学生と20件のホストファミリーをコーディネートし、夏の「やっさ祭り」に合わせたおよそ1週間、日本の文化を知ってもらうための活動を行っていました。この活動では毎回、ホストファミリーを見つけることが大変です。1週間という期間の長さはホストファミリーへの負担も大きくなるのですが、その期間が長ければ長いほど留学生とホストファミリーとの絆も深まることは確かで、お願いを続けています。またこのコロナ禍においては「新やっさ国際交流」と銘打ち、湯河原の旅館の皆様には様々なご協力を賜りながら、町民と親しく交わるプログラムを実践して参りました。

2. 国際フォーラム in ゆがわら

やっさホームステイ交流開催時はおよそ10カ国の留学生が来湯しますが、彼らがディスカッションする場を設けたい、という発想から実現したのがこのフォーラムです。コロナ禍ではYouTubeでの配信にも挑戦しました。翻訳機能の精度はまだ十分ではないと感じられますが、大まかなところは通じ合い、その様子をそれぞれ自国の友達や家族にも紹介できるという意味では意義深いものでした。またこのフォーラムの特徴に、ディスカッションは日本語で行うというものがあります。日本に来て半年～1年程度の留学生ですが、このような場を経験することの学習効果はとても大きく、様子を眺めた日本語学校の先生が上達ぶりに驚くほどです。またコーディネーター兼司会進行役の葉さんには、参加者が言いたいことをうまく引き出していただき、それも成功の大きな要因となっています。

3. 世界を旅する「国際理解講座」

その国、地域に住んでいる方の生の声を聞いて欲しい、という願いのもと、講座を設定しています。今湯河原にはおよそ300名の外国の方が暮らしており、本人や彼らの知り合いを招くなど、生の声にこだわる形で講座を設けています。

4. インターナショナル・デイ

講座より規模が大きな国際交流の形として、それぞれの国の文化、歴史、料理などを紹介するイベントです。2015年の「ペルーの日」を皮切りに、オーストラリア、中華人民共和国、

イタリア、インドをテーマとして開催してきました。コロナ禍では多くの人が集まるイベントの開催が困難であったため、新やっさ国際交流においては、彼らの自国紹介と共に日本の和服ファッションショーを行いました。

5. 豪州ポートステイブンス市民交流

湯河原町は国外では韓国・忠州市と共に、豪州・ポートステイブンス市と姉妹都市を結んでいます。元々「英語圏と姉妹都市を結び、市民交流を行いたい」という願いのもと、姉妹都市先にはアメリカが候補に上がっていましたが、時の湾岸戦争の影響もあり、オーストラリアの都市が選ばれました。シドニーから車や電車で1時間半程度の距離にある海辺のリゾート地で、立地的に湯河原と似ている部分が多いと感じられる都市です。コロナ禍前までは湯河原中学校の中学2年生が毎年数名派遣されていました。コロナ禍によってその往来は中断を余儀なくされましたが、ビデオレターの制作などを協会としてコーディネートし、先方との交流は続けられています。

6. 日本語支援教室

2015年に開始した新しいプログラムで、湯河原や近隣在住の外国人の日本での生活を言葉(日本語)で支援するものです。きっかけはお子さんを幼稚園に通わせていた外国人の親御さんが、園からの「お便り」を理解することが難しいという問題でした。学校や進学についてのアシストはもちろんのこと、「お便り」に代表されるような日常的なコミュニケーションをバックアップする願いが込められています。現在、日本語支援ボランティアに35名が登録しています。

7. 国際交流サロン「地球民ラウンジ」

外国人も気軽に集まり、楽しく情報交換できる場所が欲しいという希望のもと、2020年に開設されたラウンジです。毎月第2日曜日に開催しています。

最後に、ボランティア団体としての基本的な理念というのは三つ、ひとつは「身体で奉仕する」、もうひとつは「知恵を絞る」、そして「財力でバックアップする」、そのどれかひとつでもできれば成立するとされていますが、「要は体力だけで勝負すればいいんだ」という思いでここまで3代目会長として務めて参りました。現在、私たちと汗を流してくださる方がおよそ30名、知恵をお貸しくださる方はもう少し多く、そして財政的に協力してくださる方が会員の半分以上いらっしゃるという状況です。この機会にゆがわら国際交流協会を知った、という皆様の中で、少しでも私達に協力していただけるというお気持ちがありましたら、ぜひ会員になっていただきたくお願い申し上げます。目標は会員200名です。よろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

(文・編集:丸塚順子(3月会報担当)/クラブ会報委員会)